

平成 25 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

吹田市内の府立高校として最も長い歴史を持つ本校は、「伝統校」の誇りを持ち、地域に根差した信頼できる学校として生徒の持つ能力を最大限引き出すことを目標としている。とりわけ、生徒が自ら以下の力を身につけられるよう、教職員が一体となり、多様な取組みを進めていく。

1 基本的な生活習慣を確立し、規範意識を育む力 2 地域に学び、志と希望をもって勉学に打ち込む力 3 将来の社会と人生を見据え、進路を拓く力

2 中期的目標

- 1 信頼される学校づくり
- (1) 新学習指導要領を踏まえ、生徒の持つ学力を最大限に引き出す。
- ア 公開授業、研究授業の定期実施、授業に関する生徒アンケートの綿密な分析等に基づき、『使える英語プロジェクト』なども活用し「わかる授業、興味を持てる授業」をめざした授業改善に取り組む。あわせて、「朝の学習会（朝ガク）」の全学年実施により継続的に基礎学力の定着を図る。
- ※生徒向け授業アンケートにおける授業等学習活動に関する項目の満足度（H24：80％）を毎年５％以上引きあげ、それを維持する。
- (2) 卒業後の人生を見据え、規範意識と豊かな心をはぐくむ。
- ア 遅刻「0」の学校をめざし、学校をあげて「朝ガク」の充実、放課後の「居残り指導」を徹底する。また、授業規範の確立を図る。加えて、コミュニケーションの大切さを実感し身につけさせるため、「朝のあいさつ運動」を拡大する。
- ※平成 27 年度には、遅刻総数を 2,000 件以下にする。（H23：8,251 件、H24：2,555 件（12 月末段階））
- ※生徒向け学校教育自己診断の規範意識に関する全ての項目の肯定率（H24：50％）を毎年５％以上引きあげる。
- ※朝のあいさつ運動参加者（H23：11.2％、H24：44.6％）を平成 26 年度には全校生徒の 60％にする。
- イ いじめを許さないことはもとより、互いを認め合える集団づくりを推進する。
- ※生徒向け学校教育自己診断の人権に関する項目における肯定率（H24：51％）を毎年５％以上引きあげる。
- (3) 生徒が主体的に進路目標を定め、実現できるよう、『実践的キャリア教育・職業教育』支援事業を活用し「展望を持たせる取組み」を充実させる。
- ア 3 年間を見据えた系統的な進路指導計画への改善を進め、平成 25 年度より『吹田進路プログラム（SSP）』を実施して平成 27 年度には定着させる。
- また、平成 23 年度から全校的に取り組みはじめた継続的な進学講習を定着・発展させる。
- ※生徒向け学校教育自己診断の進路指導に関する全ての項目の肯定率（H24：68％）を毎年５％以上引きあげる。
- ※平成 23 年度から全校的に取り組みはじめた進学講習（H23：59 人、H24：84 人）への参加生徒数を平成 27 年度には平成 23 年度の 3 倍増にする。

2 学校生活の充実・魅力ある学校づくり

- (1) こども未来専門コース、進学クラスの円滑な推進
- ア 生徒にとっての「魅力ある学校づくり」の一環として、昨年度入学生から開設したこども未来専門コースについて、大学等との連携強化をはじめ近隣の幼稚園・保育園との協働によるデュアル・システムの導入など、生徒の総合的な資質の向上に向けて円滑な推進に努める。
- ※こども未来専門コースを選択した生徒たちにアンケートを実施し、コースで学ぶ内容等についての満足度（H25 から実施）を毎年５％以上引きあげる。
- イ 大学進学希望の高まりに応えるため、進学に重点を置く進学クラスを平成 25 年度第 1 学年より順次開設する。授業の質を向上させ、習熟度別講座の開設ならびに土曜講習を計画的に実施する。
- ※平成 25 年度より進学クラスを毎年生徒の希望に応じて 1 クラス以上開設する。進学クラスの土曜講習は原則全員参加とする。
- (2) 生徒の集団や学校への愛着・帰属意識を高めるため、学校行事・部活動のさらなる充実、活性化を図る。
- ア 行事を通じて得られる成功体験により生徒の自己肯定感と自己有用感を高めるとともに、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を高め、新たな提案や活動ができる人材を輩出できるよう、生徒・生徒会の主体的な活動を積極的に支援する。
- ※生徒向け学校教育自己診断における学校生活の項目の肯定率（H24：73.9％）を毎年 5％引きあげ、学校行事後の生徒向けアンケートにおける満足度（H24：70％）を 80％以上で維持する。
- イ 入学時のクラブ紹介に工夫を凝らすなど、部活動への加入を促す取組みを計画・実施する。また、卒業生や地域との連携を深めるとともに、地域の小・中学生を対象にしたスポーツ教室や文化教室を開催する部を増やす。
- ※部活動の加入率（H24：52％）を毎年３％以上引きあげ、H27 年度には 60％以上にする。
- (3) 安心・安全な学校生活が送れるよう、教育相談体制の充実、ならびに保護者等との連携強化を図る。
- ア 保護者や校外の関係機関との連携を強化するとともに、生徒情報会議を月 1 回開催し、課題を抱える生徒の早期発見・対応を図る。加えて、生徒相談室を昼休みと放課後に開放し、担当教員が生徒の相談に対応するなど、支援や指導が必要な生徒に適切な支援・指導を行うことができる体制を確立する。また、スクールカウンセラーによる相談日を年間 15 回設定し、生徒や保護者からの相談に対応する。
- イ 体育祭・文化祭やクリーンキャンペーンなどの学校行事への保護者・地域住民のより積極的な参加を図り、生徒・教職員との交流の機会を拡大する。同時に P T A 実行委員会等への教職員の参加を促し、状況報告、意見交換を行うなど双方向的な関係の深化に努める。さらに、学校見学会を活性化し、より広汎な中学生の参加を図るとともに本校生徒の運営への参加を広げ、中学生との交流の機会を増やすことで「吹高生」としての自覚を高める。
- ※生徒・保護者向け学校教育自己診断等の教育相談、保護者・地域との連携に関する項目の満足度（H24：生徒 18％、保護者 23％）を毎年 2％増加させる。

3 校内組織・教職員集団づくり（運営委員会を中心とした組織的運営）

- (1) 運営委員会を中心として、さらに学校運営の機動性を高める。また、これまで以上に積極的・意欲的で一体感のある教職員集団の構築をめざし、担任団、分掌、事務室等から学校経営計画の実現に向けた建設的な改善策や新たな取組みが、より積極的に提案される学校風土を醸成する。
- ア 学校運営に関わる大きな取組み・計画については運営委員会で議論を深めるなど、目標を共有した組織的、一体的な取組みをスピード感を持って行う。
- イ 首席を中心に、学務グループ（教務部・進路部）、生徒グループ（生徒指導部・生徒会部・保健部）が、それぞれグループ内の連絡調整を円滑に行う。
- ※教員向け学校教育自己診断等の「学校運営」の校内組織・教職員集団に関する項目の肯定率（H24：35.5％）を毎年５％以上引きあげる。
- (2) I C T 等、校内ネットワークを活用し、諸会議の効率化に努める。
- ア 教職員が生徒と向き合う時間を確保するため、運営委員会から積極的な呼びかけを実施し、省略できる連絡事項は校内メールによる情報共有を行い、会議資料の簡素化、職員会議の内容の充実を図る。 ※引き続き、職員会議に要する時間を平均 1 時間とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 信頼される学校づくり	（１）生徒の持つ学力を最大限に引き出す ・授業アンケートの活用と授業見学週間の定着 ・組織的な教科指導の実施 ・授業規律の確立と授業マナーの向上 （２）規範意識と豊かな心をはぐくむ。 ・遅刻撲滅 ・身だしなみ指導 ・互いを認め合える集団づくり （３）展望を持たせる進路指導の充実 ・３年間を見据えた系統的な進路指導計画への改善 ・進学講習の定着・発展	・授業アンケートを７月、１２月に実施・分析し、授業改善に活用する。 ・全教員が公開授業週間に１回は授業見学を行い、助言シートを提出する。 ・教科会議を精力的に実施し、教材・テストの共通化、定期的な研究授業、授業外での生徒の学習時間増加に向けた検討を進める。 ・教員・生徒が一体となり、授業マナー向上に取り組む。（机上整備・準備の徹底、生徒への「授業マナー向上」ポスター募集、携帯電話電源 OFF 等） ・全学年で居残り指導の継続 ・頭髮指導の継続 ・正しい制服着用の徹底 ・いじめアンケートの実施、迅速な対応 ・人権ホームルームの質・量両面での向上 ・３年間の進路指導計画に基づいた指導を学校全体で情報を共有しながら実践し、成果検証と改善点の検討を行い、スキームの質を高める。 ・全学年で実施している進学講習（H24 年度継続参加者 84 人）について、時期・目的を明確にして、受講促進を図る。	・生徒向け授業アンケートの授業に関する質問への満足度 85％以上 ・全教科 1 回以上の研究協議実施 ・７・１２月の授業アンケートで生徒の授業外学習時間を比較し、増加させる。 ・生徒向け学校教育自己診断の授業規律（マナー）に関する質問に対する満足度 80％以上 ・遅刻数 2,500 件未満 ・帰宅指導件数 50 件未満 ・下校時のブレザーチェックで着用率 100％ ・６・７月にいじめアンケートを実施し、迅速な対応を行う。 ・２・３学期に人権 HR を行い、生徒向け学校教育自己診断の人権に関する項目の肯定率 56％以上 ・平成 25 年度末に、新しい進路指導計画を確立させる。 ・進学講習への継続参加生徒数を平成 25 年度には 120 人にする。	
2 学校生活の充実・魅力ある学校づくり	（１）こども未来専門コース、進学クラスの円滑な推進 ・こども未来専門コースへのデュアル・システムの導入 ・進学クラスの円滑な導入 （２）学校行事・部活動のさらなる充実、活性化 ・生徒会執行部の主体的な活動を拡大・促進 ・学校行事の質の向上、その実現のための体制づくり ・クラブ加入促進のための PR 活動の拡大 （３）安心・安全な学校生活、教育相談体制の充実、ならびに保護者等との連携強化 ・安全管理の徹底 ・校内美化の推進 ・教育相談・支援教育の充実	・３年次で展開される専門教科の授業を円滑に推進する。 ・26 年度実施の「保育実習」に向けて、受け入れ先を確保する。 ・25 年度に進学クラスを 1 クラス以上開設する。 ・進学クラスの土曜講習を計画的に実施する。 ・生徒会執行部とそれ以外の生徒の連携を促し、吹田高校生の自主的な活動の支援を行うとともに、それを実現し得る校内体制を構築する。 ・校内外における部活動の情報提供を活性化し、加入促進の PR 活動を拡大・推進する。 ・生徒・教職員による安全点検を定期的に行い、安心・安全な学校環境を維持する。 ・関係各機関と連携し、防災避難訓練、救急処置講習会、薬物乱用防止教室を実施し、地域的な安全対策を推進する。 ・保護者や生徒保健委員会、地域を巻き込んだでの清掃活動を通して美化意識を向上させる。 ・多様な生徒情報を保健部主導による月に 1 回の生徒情報会議で共有し、課題を抱える生徒への早期対応に取り組む。 ・健康相談を随時実施し、生徒や保護者が有する心身の健康についての悩みや相談にいち早く支援する。	・生徒向け授業アンケートの満足度 90％以上 ・受入れ幼稚園・保育園を 15 園以上確保する。 ・土曜講習の満足度 80％以上。 ・体育祭、文化祭の生徒アンケートにおける満足度 80％ ・学校教育自己診断での教員向けアンケートで「学校行事の組織的な取組み」に関する質問項目での肯定率 60％ ・生徒・保護者向けアンケートの PR 活動に関する質問項目での肯定率 50％ ・定期安全点検を年間 3 回以上実施 ・左記の各種研修・講習を確実に実施する。 ・生徒保健委員によるミニ・クリーンキャンペーンを年間 8 回以上実施 ・相談室通信を年間 3 回以上発行 ・健康相談を定期的を実施 ・生徒・保護者向けアンケートでの教育相談、保護者・地域との連携に関する項目の認知度を 50％以上	
3 校内組織・教職員集団づくり	（１）学校運営の機動性をさらに高める ア・運営委員会による目標を共有した取組みの推進 イ・首席を中心としたグループ内の円滑な連絡調整 （２）職員会議の簡素化・効率化	（１）ア・運営委員会の役割を確認し、教育目標の達成に向けた取組みなどの議論を深め、スピード感を持って目標を共有した組織的、一体的な取組みを行う。 イ ・学務グループと生徒グループが、グループ長（首席）主導により、グループ内の相互協力体制を確立し、組織的校務運営の効率化を高める。 ・担任団や各分掌・事務室等から、教育目標の達成に向けた具体的な改善方策や新たな取組みを、積極的に提案する。 （２）・職員会議のレジュメを工夫することで、より速やかな議事進行をめざす。 ・校内メール、共有フォルダ、スクリーン映写資料を活用して報告事項の精査、資料の簡素化、会議に要する時間の短縮をめざす。	ア・イ ・学校運営に関する教員向けアンケートを実施し、校内組織の機動性・教職員集団の活性化に関する項目の肯定率 50％以上 ・職員会議の平均所要時間 1 時間	